

前橋市立前橋高等学校 学校評価一覧表 (令和7年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	参考(達成状況のまとめ及び次年度の課題)	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①本校の探究学習プロジェクト「めぶく」に主体的に取り組んだと感じている生徒の割合が75%以上である。	総合的な探究の時間をとおして課題解決の基礎を学び、生徒全員が地域の課題を自分事として考え、解決しようとする機会を設ける。また、最後には全員がレポートを作成し、探究を振り返る。	A	A	A	昨年度に開始した個人探究(ちいぶれ!)に加え、今年度は振り返りの一環として、MTR(マイ探究レポート)の作成に取り組み始めた。今後は、それに至るまでの過程を見直し、さらなる質的向上を図ってきたい。	○探究学習は、1年生の「ちいぶれ!」という個人探究が昨年度から追加され、授業視察を通して質的に向上しているのが実感できた。1年の職員だけでなく、学校全体でこのような活動に関わると、生徒一人一人にもっと行き届いた指導ができるので、ぜひ学年を横断して指導に取り組んでもらいたい。 ○国外修学旅行について、実施自体の意義は十分理解できる。一方で、旅費が各家庭の重荷にならないよう配慮する必要がある。
		②「国際理解に関心を持つようになった」と感じている生徒が75%以上である。	Tokyo Global Gateway、イチャイGlobal Day、台湾修学旅行、海外研修やそれぞれの事前学習などを通し、様々な場面で異文化や外国語に触れる機会を設ける。	A	B	B	今年度は、1年次のTGG(1回目)およびGlobal Day、2年次のTGG(2回目)と台湾修学旅行を通して、国際理解教育に連続性を持たせることができた。また、個人で参加する海外研修旅行等も紹介し、2月に参加予定の生徒もいる。	
		③生徒の75%以上が自分に合った学びができたと感じている。	2年次からクラスを総合コース、文理コース、文系コース、理系コースに分け、生徒の適性に合った学習活動を展開する。	A	A	A	コース選択については、総合系や文理系など、特色のあるコースを設定しており、概ね問題ない。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④学習に対する達成感や満足感をもっている生徒が75%以上である。	習熟度別や少人数制の授業で個に応じた指導を実施し、小テストなどを積極的に取り入れることで生徒自身が学習を振り返ることのできる機会を設ける。	A	A	B	年間を通して計画通り実施できたが、外部評価が十分でない点を考慮し、次年度の授業改善につなげていきたい。	○今年度の授業改善計画の中心に「非認知能力」を育成するような授業の研究と、「指導と評価の一体化」があることが理解できた。今後も継続して授業改善を推進してもらいたい。
		⑤「授業がわかりやすい」と評価している生徒が75%以上である。	生徒が主体的に考え、学び合うことができるテーマを設定し、興味関心を引く授業を展開する。	A	A	A	授業アンケートを年2回、全科目で実施した。生徒からの声を授業に反映し、今後も各教員が授業改善に努めていく。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥「授業をとおして学力が向上した」と評価している生徒が70%以上である。 ⑦進路実現に向け、自らの課題を把握し、学習計画を立て、それを実行している生徒が70%以上である。	知識の「活用」や「振り返り」を授業に効果的に入れることで、学習に対する達成感や成長を実感させる。 キャリアパスポート等を適切に活用することで進路実現に向けた「見直し」を持たせ、それに基づいた行動を促し、面談等で定期的に自らの取り組みの「振り返り」をさせる。	A	B	B	「非認知能力の育成」をテーマに授業改善を進めてきた。その過程で、知識の活用や振り返りを授業計画に位置付け、教師側の意識付けを図ることができた。 今年度は、本校オリジナル手帳にキャリアパスポートのページを設け、生徒と担任が確認しやすくなるよう工夫した。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧いじめ防止対策委員会を年間20回以上開催する。	いじめと疑われる事案の際にはすぐに委員会を招集し、大きな問題につながる前に組織的な対応を行う。また、いじめの報告が3カ月ない場合は、経過観察や未然防止に向けた取り組みのため委員会を開くようにする。	A	B	B	いじめ防止対策委員会については20回以上開くことができた。小委員会としての開催によるものが大半を占めたが、いじめとして認定されないものも認知し、対応策について共通認識をもって取り組むことができた。初期対応は素早く適切に取れた。	○ほとんどの生徒がヘルメットを持っている一方で、着用率自体が十分ではない。学校周辺だけでなく、本当の意味で着用してもらえるよう、指導を強化してもらいたい。 ○登下校の動線を確認するなど、安全上問題のある箇所の点検をしていくと良い。
		⑨交通事故による頭部損傷を防ぐためにヘルメット着用率が95%以上である。	登下校の事故ハザードマップの提示や街頭指導を実施し、定期的に着用率を把握、事故件数や法律の遵守を生徒へ周知、啓発をしていく。	D	B	C	昨年度に比べると事故数は同じくらい件数であったが重大事故が1件、重症事故も多かった。県内一斉マナーアップの開催が減った分を交通係を中心に独自のマナーアップを行った。自宅から学校までのヘルメット着用率を次年度は上げていく工夫をする。	
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩学校は「学校いじめ防止基本方針」について、生徒に説明していると認識している生徒が70%以上である。 ⑪生徒がいじめに関する相談を学校にしやすい環境であると評価している生徒が70%以上である。	学校いじめ防止基本方針を生徒と保護者に周知徹底させ、いじめ防止とともに諸問題について早期発見早期対応を心掛け、組織的対応を図る。 週ごとの声掛けや学期ごとの面談を行い、直接相談できなくてもアンケートを定期的に実施することで生徒が不安や悩みを学校へ繋げやすい環境を全職員で作る。	A	B	B	いじめ防止基本方針の周知に向け、配信やHP掲載等を行ったが必要性を感じない方も多いため、周知方法に工夫が必要であると感じた。組織対応は、情報共有や記録の徹底など円滑に行うことができている。 職員全体としては、相談や支援する体制を作っているが生徒側からすると不安を解消できるような安心感を持っていないのが現状のようだ。相談して満足できるような体制を一から見直す。	
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫学校と家庭の連携の中で、生活習慣の乱れによる欠席や遅刻がないと自覚している生徒が70%以上である。 ⑬ゴミを分別し、校内の美化を心がけている生徒が80%以上である。	基本的な生活習慣を身につけさせるため、全職員で生活指導に取り組み、規律ある学校生活が送れるようにする。 校内の美化と環境への配慮を意識づけることにより、快適で安全な学習環境を整備する。	B	A	A	登校時間遵守に課題のある生徒が1割程度いるが、授業規律は確保ができています。次年度はより家庭と連携して生活習慣改善に取り組んでいく。 ゴミの持ち帰りや分別についての理解が進んでおり、教室棟からのゴミについては特に大きな問題はなかった。だが、部室棟からのゴミについては、不完全な分別や個人ゴミの混入などが見られた。分別表の改良やゴミの持ち帰りの呼びかけを行ってきたい。	○ゴミの分別について評価が低いのが気になる。日本人の美德につながることで、指導を強化してもらいたい。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑭学校から提供される進路通信や進路情報、進路資料室の資料などが役立っていると評価している生徒が75%以上である。 ⑮生徒の将来の志望について理解している保護者が75%以上である。	進路通信、進路情報誌、進路資料室等を生徒が主体的に活用できるようにするとともに、情報提供のツールとして「Google Classroom」や「すくーる」を効果的に活用する。 家庭での進路についての会話を増やせるよう、保護者参加の進路講演会や進路通信を充実させる。	A	C	B	「すくーる」を活用し、校外イベントに関する情報発信を行っている。次年度は、こうした情報を含め、さまざまな内容を進路通信の形式で発信していきたい。また、入学直後の1学年の生徒・保護者に対して本校の進路指導方針をより明確に示すため、最初の進路講演会の内容について、複数の教員で検討を重ねていきたい。	○3年の先生だけでなく、進路指導部や他の学年の先生も協力して、学校全体で進路指導にあたり、推薦入試に取り組んでいるということが理解できた。今後も継続して生徒のために頑張ってもらいたい。
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑯「自己の生き方」と「将来の職業」との関連について考えている生徒が75%以上である。 ⑰1年生で自己の適性を考えてコース選択をできた生徒が80%以上、2年生で進路希望を考えた科目選択をできた生徒が80%以上である。	大学見学会、総合的な探究の時間、インターンシップ、オープンキャンパス等とおし、自己の生き方を考える機会を充実させる。 二者面談をおし、生徒の希望や適性を把握するとともに、コース選択や科目選択の説明会を実施し、進路意識を高めていく。	B	B	B	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱学校のWebページや連絡メールで学校の情報を確認している保護者が80%以上である。 ⑲保護者が来校できる行事が年2回以上実施されていることを認識している保護者が80%以上である。	学校における諸活動の様子や最新の情報をWebページ等に適宜掲載し、家庭や地域のニーズに対応する。 紙による行事案内に加えて「すくーる」を使って保護者に行事予定を周知し、保護者が参加しやすい環境を整える。	A	A	A	学校行事を遅滞なくWebページで公開してきた。XやInstagramでの公開については、今後さらなる活用の機会を設定していく。 PTA総会実施のタイミングで、年間の「保護者参加可能行事」を配付し、その都度「すくーる」を使って担当から参加募集を促した。申し込み締め切り直前に再度リマインドを入れるなどして、さらなる周知を図りたい。	○保護者向けの学校公開だけでなく、広く一般住民も学校を見られるような公開期間を設定すべき。
		VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳授業や家庭学習においてChromebookを活用させる教職員の割合が75%以上である。 ㉑ICTを活用した授業や探究学習に満足している生徒が75%以上である。	生徒に貸与されたChromebookやスタディサプリ、ロイロノートなどを活用した授業や探究学習を積極的に実践する。また、活用事例を職員間で共有する機会を設ける。 市から貸与されたChromebookにより高い教育効果が得られるよう、指導方法を工夫する。	A	A	
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉒学校行事の出欠確認や各種調査への回答および集約が便利になったと感じている生徒・保護者・職員の割合が80%以上である。 ㉓ICTを活用したアンケートに回答している生徒・保護者の割合が90%以上である。	学校行事への参加申込みや各種調査を「すくーる」やGoogle formsを利用してオンラインで行い、提出および集計作業を軽減する。 アンケート実施のお知らせや回答方法を「すくーる」やGoogle Classroomで送信し、周知徹底を図る。	A	A	A	主なアンケートはほとんど「すくーる」によって配信してきた。学校以外の「すくーる」発信も多いため、保護者が重要な情報を確認しやすいよう工夫する必要がある。	○パソコンを使った指導が一定水準を保っているのが理解できた。一方でなんでもパソコンで安易に調べてしまう生徒もいるようなので、きちんとした資料は図書館のレファレンスなどで正確な情報を得る努力を経験させるべき。 ○すくーるをはじめとするICTの活用については良好と判断できる。今後も県立学校や私立学校の取組等を参考にしながら、生徒と先生のために推進してもらいたい。
※各学校で必要に応じて評価対象を加える。								